

技術・体力を見直し、自立したプレーへ 仲間の気持ちを考える行動も肝要

攻めと守りが目まぐるしく交代し、1チーム5人が躍動感あふれるダイナミックなプレーを展開する。選手一人一人が互いの個性と役割を大切にしながら得点を競い合う。バスケットボールの魅力はそこに集約されます。

小学校でミニバスケットボールに慣れ親しんだ部員は、中学校でバスケットボールにチャレンジすると、ボール



の大きさ、リングの高さ、ルールの違いに直面します。それまで難くこなしていたプレーも容易ではなくなります。こうしたギャップを埋めるために基礎となる技術・体力をしっかりと見直すことから始めます。そこから部員の自主的な行動による自立した練習やプレーを目指します。そのためには常に周りの変化や仲間の気持ちを考える行動も肝要です。それはプレーの向上だけでなく、日常生活にも大切なことになるのです。

チームポリシー *policy*

- 1.主体的に行動、プレーする生徒、選手を目指します
- 2.人間力向上を大切におもいやりのある生徒を目指します
- 3.やりがいがあり、笑顔があふれるチームを目指します

NEWS

高度なプレー、試合運び 科学的トレーニングを 目の当たりに

石川県内バスケットボールチームで唯一の中高大一貫指導体制により、入部した部員たちはレベルの高いプレーや試合運び、科学的なトレーニングを目の当たりにします。これにより、モチベーションの向上や目標設定につながります。

指導者の胸の内

笑顔は無限の力を引き出す



高校時代に母校の津幡町津幡中学校でバスケットボールの指導を行って以来、20年にわたって「バスケットボールコーチ」を務めてきました。大学時代は、恩師の勧めで選手としてではなく学生コーチに専念、練習メニューを考え、試合中は監督を補佐してデータを活用した戦略を立案、勝利を目指しました。大学卒業後はふるさと石川県に戻り、小学校、中学校、高校で男女それぞれのチームのコーチとして指導に当たってきました。

そこで感じたのは、どの年代でも笑顔でバスケットボールを楽しみ、チャレンジし続けるチームは日々進化するということです。自分の知識や経験に満足することなく探求心を持って練習に励み、試合に挑むことは無限の力になっていくのです。心身ともに大きく成長する中学生の無限の力を引き出すよう尽くします。

岡本 栄太 監督

国士舘大学卒。卒業後、ふるさとの石川県に戻り、大学生から小学生まで幅広い年代の指導を行う。2016年第47回全国ミニバスケットボール大会優勝。16年から県U12県選抜チームヘッドコーチ。

一番の 思い出

津幡町のミニバスケットボールチームを指導して臨んだ第47回全国ミニバスケットボール大会決勝戦、2点リードで迎えた試合終了直前、相手チームにブザービーター（残り時間0秒でゴールに入った得点）で同点とされました。勝利目前の延長戦にも、ベンチに悲壮感はなく、全員が笑顔でプレーを続けました。その結果、相手を上回るゴールを決め、悲願の全国大会優勝を果たしました。苦しい状況でも笑顔でいることが無限の力になると認識した試合でした。

練習場所

金沢学院大学附属中学校体育館、
大学・高校関連施設

活動予定

週5日～6日（トレーニング含む）。
1日3時間程度。週1日休日を設けます。

